令和５年度

総括評価表

（学校名：富岡東高等学校羽ノ浦校）（No.2）

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	今後の改善方策
Ⅱ　臨地実習での支援体制の充実を図り、看護師国家試験合格をめざす。	《全校レベル》 Ⅱ　力量に応じた個別指導を行うことで、臨地実習に必要な知識や技術を確実に習得させる。 《下位組織レベル》 ①看護科・専攻科教員と臨地実習指導者との連携を深め、効果的な臨地実習を実施する。［看護科・専攻科教員・各施設担当者］ ②実習時における個別・グループ別指導それぞれの特徴を生かし、思考判断力を伸張する。［看護科・専攻科教員］ ③模擬試験を活用した個別指導により、試験の得点率を向上させる。 ［看護科・専攻科教員・進路指導課］	**評価指標** ①看護科・専攻科教員と臨地実習指導者との情報交換を１日１回行い、生徒学生の課題を早期に把握する。その日のうちに、それぞれの課題に対する適切なアドバイスや資料等の提供を行う。 ②臨地実習中に１日１回以上、実習終了後に１回、生徒学生全員に実習場面の振り返りを行わせることで、思考判断能力を育成する。 ③専攻科２年において、各模擬試験の得点率が必修問題８割、一般・状況設定問題７割以上を目標とし、国試直前の模擬試験においては受験者の 90 パーセント以上がこの目標を達成できる。 ④専攻科において、模擬試験毎に試験結果を用いて個別指導を行う。 **活動計画** ①看護科・専攻科教員と臨地実習指導者の連携を密にし、生徒学生の課題を早期に把握する。次に、それぞれの課題に対する適切なアドバイスや資料等の提供を行い、生徒学生への支援を行う。 ②臨地実習中は随時振り返りをさせ、個別指導を行うことで思考判断力を育成する。又、常に専門書を活用し、自ら学ぶ姿勢を確立させる。 ③各模擬試験結果をフィードバックし、専攻科補習や国試演習において習熟度別等のグループ演習を行い、個に応じた指導を行うことで得点率を向上させる。	**評価指標の達成度** **看護科**：臨地指導者と１日１回以上、情報交換を行い、実習中の生徒の状況を把握した。 **専攻科**：臨地指導者と１日１回以上、情報交換を行い、各病棟毎の学生の課題を把握し、アドバイスを行った。 **看護科**：１日の学びや反省を、発表や記録に書かせて振り返りを行った。 **専攻科**：実習終了時に、各病院ごとに学びやこれからの課題等について発表した。 **専攻科**：各模擬試験の得点率目標を、必修問題８割以上、一般・状況設定問題７割以上に設定し、国試直前の模擬試験においては受験者の 93.5 パーセントがこの目標を達成できた。 **専攻科**：模擬試験毎に各人の学習不足範囲を洗い出し、個別指導を行った。 **活動計画の実施状況** **看護科**：現場での状況を臨地指導者や担当スタッフから確認し、内容によっては各自の指導を行った。 **専攻科**：実務に近い実習ができるよう、テーマ設定を行い、それぞれの課題を考えさせた。 **看護科**：日々の振り返りや看護記録を記入する中で、参考書等を参考にしながら、情報収集や根拠の導き方等を指導した。 **専攻科**：常に専門書で調べる指導を行った。 **専攻科**：補習や国試演習では、内容に応じてグループ演習と個人演習を使い分け、個別の対策を行った。	総合評価 A **（所見）** 新型コロナウイルス感染症が５類に移行後も、接触時間の制限や感染対策を十分にとりながら実習に取り組んだ。生徒・学生は臨地実習に真摯に取り組むことができている。制限がある中でも、個々の学びを全体の反省会や面談で振り返ることができた。 実習中の学びを授業、演習や国家試験の勉強に取り入れ、学習意欲の向上を図ることもできた。	○条件付きとは言え、コロナ前通りの実習に戻すのは非常に難しく、大変な苦労の上に、実習をこなされていることは、賞賛に値する。 ○実習は病院等の体制（人材）の影響が大きく、現場の教育体制を整えるためには、現場の教員の役割が非常に大きい。病院等の実習施設と連携し、理想的な実習現場となるように、継続的な協力体制を築くことが大切である。 ○補助看も増えてきたので、看護師とヘルパーの違いも学習させると共に、現場のリーダーとしての教育も必要となってきている。	○病院・施設における新型コロナ等の感染症対策の状況が社会全体と比較して厳しい中、一部の施設を除きほぼ予定通りに臨地実習が実施できたことはよかった。一方で、接触時間の制限により、コミュニケーションや看護技術等の経験が不足する傾向にあった。今後は、実習の制限も少しずつ緩和されて来ていることから、効果的な実習となるよう病院側とも協議を行っていきたい。 ○来年度の看護師国家試験より、新カリキュラムの内容が入ってくるため、日々の授業や実習を大切にしながら、さらなる知識の定着に向けた指導法に繋げたい。